

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070401219		
法人名	有限会社ツインバード		
事業所名	グループホーム「花風」		
所在地	群馬県伊勢崎市境上瀬名968-1		
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の平均年齢が90歳の為、殆どの方が、歩行介助が必要です。ターミナルケア的な方も数名います。寝たきりにならないよう離床を促し、ホールへ来て頂いています。また、水分摂取も1日1ℓ以上、飲んでいただけるように、お茶以外に好きな物を飲んで頂いています。歌の好きな方が多く、毎日歌声が響いている明るいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の平均年齢は90歳と高齢で、生活面のみならず医療面の支援が重要となっている。看護師を職員として配置し、主治医と24時間医療連携がとれる体制をとっている。主治医の訪問診療は月に2回、歯科や皮膚科医師の往診も受けられ、利用者が最後までその人らしい暮らしが続けられるように取り組んでいる。このような利用者の日々の変化を伝えるために、個々に毎月「月次報告書」という書面で事業所での様子や医療面の具体的な支援や変化、介護の方針や課題を家族に渡しており、遠方で面会の少ない家族にも喜ばれている。管理者をはじめ職員のコミュニケーションが円滑に行われているため、全体的に介護度が高くなりつつある利用者の対応も速やかに行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりを大切にするという理念を職員間で共有している。目の着くところに貼り、日々、再確認している。	「ひとりひとりの気持ちや生き方を尊敬、尊重する」の理念について、月例会議で振り返ったり、日頃の介護の中で考えながら実践したりして、時に困難な場合でもどうしたらその人らしい生き方ができるかを思い返し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんより、行事などを教えていただいているが、その日の入居者の体調により参加できないときがある。	近隣に住宅はあるが在宅率が低く、日常的な交流が難しいため、地区の区長の介入で事業所の役割や存在を理解してもらえるよう努めている。また地域の運動会やお祭りに短い時間ではあるが参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長さんに、認知症の相談拠点として手伝えることがあれば言うて欲しいと話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス状況や外部評価の結果を報告し、話し合いを持ち、より良いサービス提供が出来るように取り組んでいる。地域の方、役所の方などの色々な意見や情報を頂き、より良いホームを作って行けるように努力している。	会議は、2ヶ月毎に開催している。議題に沿って会議が進められ、参加者の意見等を聞き話し合いをしている。周辺道路の整備についての希望が出され、地区代表者から拡幅工事計画の報告が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や依頼があるときは連絡を取っている。	周辺道路の整備について相談したり、利用者が不穏な場合、窓や扉に施錠することについて確認をとり、対策を話し合ったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、拘束の弊害を確認し、身体拘束は行っていない。やむを得ない場合は、ご家族と話し合いを持ち、許可を取ることになっている。ご利用者の興奮時等、明らかに危険な状況の際は玄関を施錠することがある。	利用者が不穏時に、戸外に出してしまう対策として、居室窓の施錠や居間の掃き出し窓と玄関前扉の施錠を行っている。それぞれの利用者や家族には、状況説明や許可・同意書をとっていない。	施錠が拘束の一つに値することを理解し、不穏な時間帯や施錠場所を減少できないか事業所全体で継続して検討しつつ、利用者家族に許可や同意書を求める等の努力を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例を定例会議で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を理解し、職員が共有している。青年後見人制度を利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に努力義務を行い、納得していただいている。また、解約、制度の改正時には十分に説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	信頼関係を構築し、何でも話せるように努力している。話し出せない方の表情や行動を察知し、話を聞いている。また、ご家族などのためには、玄関に意見箱を設置している。	家族の面会時に、利用者の様子を口頭で伝えて、意見や要望を聞いている。また月次報告書を作成し、毎月家族に郵送している。以前、特別養護老人ホームの入所手続き方法や退院後のホームへの帰宅の可否について質問を受け対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者から声を掛け、話しやすい雰囲気作りをしている。毎日の申し送り時、随時、意見や提案を聞き入れている。	職員間のコミュニケーションは円滑に行われており、月に一度月例会議を設け、利用者の変化や業務内容について話し合っている。管理者から代表者に職員の増員を検討してもらいたいという意見には、増員は難しく勤務体制の工夫を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の特性を理解して、職務を与え、職務手当や資格手当を付与し、向上心を持って働けるように支援している。勤務表の作成は、個々の希望が優先され、有給も取りやすく働きやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や年齢を考慮し、それぞれにあった研修を受講できるようにしている。日々の業務の中での疑問点、問題点などはその都度、助言を与え、考える機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、交換研修に参加している。また、姉妹施設の職員との交流を持ち、意見交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を良く傾聴し、不安にならないように接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安、疑問な点、要望などを尋ね、十分な説明を行い、理解していただき、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望などを聴き、今何が必要なのか考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々人の出来る事を模索し、考え、生活の主体者となれるように支援し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活や健康状況などを随時報告し、暮らしの中で、ご家族の支援が必要な場合は、状況説明を行い、共に協力していただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出を支援したり、馴染みの方々の面会をお願いしている。	娘の所へ外泊する利用者について、円滑に外泊が実施できるよう情報提供を行っている。またそれまでの人間関係が複雑な場合は、関係性を把握した上で、ご家族との外出等を支援し、馴染みの関係が維持できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの入居者が出来ることをそれぞれに分担しながら行ってもらい、係わり合いや支えあい出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も要望があれば電話連絡や面会に行き、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や言動の中から、希望、意向を把握するようにしている。困難な場合は家族に話を聴き、本人の思いに近づくようにしている。	利用者にあった話し方で本心を聞くように努め、年賀状を出したり、墓参りに行ったり、歌ったり、パズルをしたりする等利用者の希望や意向に添った支援をしている。意思表示が困難な場合は、家族の気づきを伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仕事、趣味、家族等の話を日常会話の中に取り入れ、苦労話や楽しかった話を聴き、その入居者にあった対応に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の興味のある物、出来るものなどを把握するようにしている。パズル、新聞読み、タオルたたみ等、各自のペースで生活できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から話を聴き、月例会議でケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	月1回の月例会議で、利用者の担当職員が利用者の様子や変化・本人や家族の希望を報告し、ケアカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。「月次報告書」は、モニタリングを兼ね家族に郵送している。日々の介護記録は、介護計画を反映したものになっていない。	職員は介護計画を意識し、それに基づいた日々のケアを行い、介護記録に記載されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状況を24時間、個別に記録している。記録から情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、理美容のサービス提供、月2回の主治医の往診以外、歯科、皮膚科の医師にも往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報を見たり、区長さんに地域の行事を教えていただいている。また、歌や踊り等のボランティアにも来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医があり、24時間体制で支援している。看護職員が必要に応じて、随時状況報告をし、家族の希望を尊重しながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員の主治医は、事業所の協力医で、月に2回、訪問診療を行っている。事業所は看護師を職員として配置し、主治医と24時間体制で医療連携を行い、適切な医療が受けられるように支援している。必要時、歯科・皮膚科の医師にも往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がおり、適宜情報提供、相談し、適切な受診や看護を受けられるように健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員が中心になり、家族と相談したり病院などに情報提供や面会に行ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針を説明し、本人家族、主治医との話し合いを持ち、方針を共有している。重度化した場合や終末期のあり方について、家族と十分に話し合い、方針を共有し、主治医に協力を得ながら支援している。	事業所は、終末期の支援は行わない方針としているが、家族の希望で医師と話し合いを重ね、これまでに3名の看取りを行っている。重度化についてもその都度確認し、事業所のできる限りの対応を主治医の協力を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに添って行っている。また、ご利用者の状態に合わせて、看護師が対処方法を指示している。普通救命救急講習を殆どの職員が受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練(時々夜間想定)を行っている。	年に2回の避難訓練を実施している。1回は、消防署の協力のもと実施し、他は自主訓練として夜間を想定した訓練を実施している。区長から近隣住民に訓練の促しや、夜間の火災時などの協力を依頼しているが、日中在宅の住宅が少なく、夜間も在宅している隣人が限られており、対策が乏しい。	近隣住宅の事情が様々あり、協力体制作りが難しい点もあるが、協力依頼範囲を拡大するなど体制づくりに工夫をこらし、事業所全体の課題として取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉使い、態度、接し方など、不快感を与えないように心がけている。ホーム内に飾る写真等、ご本人ご家族の了解を得てから飾っている。	利用者それぞれの職歴や人との関わり方を把握した上で、声かけ時の言葉の選び方や、呼び名を使い、一人ひとりを尊重することを心がけている。また事業所内に写真や名前を示すことはなく、個人のファイルにまとめてプライバシー確保をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表した利用者には、出来る限り希望通りになるように対応している。自己決定が困難な方には、選択肢を数個上げ、選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼寝をしたい方には居室で1時間半位休んでもらう。入浴には声を掛け、拒否時は日を改めたり、入浴の順番を変更したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選べる方、毎日髪をブラシでとかす方など、本人の希望に添って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キザミ、すりつぶし等、一人ひとりにあった食事内容、調理方法にて対応している。食器洗い、食器拭き等、一緒に行っている。	食材を購入する前に、利用者に食べたいものを伺い、調理している。3食とも職員が作るが、夕食は食材配給業者のものを使用している。咀嚼や嚥下困難な利用者には、食べやすく加工して提供している。食器洗い・食器拭き等は、利用者を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を把握して記録し、確認している。個々の嗜好に合わせた調理や飲み物にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で口腔ケアが困難な方には介助を行い、口腔内を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間で声を掛け、誘導し、失敗無くスムーズに排泄できるように支援している。	現在オムツ使用者はおらず、独歩困難や座位が安定しない利用者でも、2名体制で介助してトイレ排泄を支援している。夜間はポータブルトイレやパット交換で、移動距離を考慮した排泄方法にしたり、安眠を促しその人の力量にあった無理のない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い、リハビリ体操や歩行訓練を1日2回行い、運動する機会を確保し予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっても、本人の希望時間に入浴出来るように支援している。また、汚染時や発汗時は随時行っている。	午前中に入浴時間を設け、週に2回入浴できるように支援している。本人の希望時間に入れるようにしており、拒否する場合は声をかけるタイミングを考え対応している。入浴剤を入れたり、ゆず湯にしたりする等、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後1時から3時まで昼寝の時間を取っている。昼寝は個々の意思や身体状況に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心になり、ケース記録簿に個々の服薬一覧表を入れ、各職員が理解し変化時は申し送りを行い、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、茶碗拭き、パズル、塗り絵等、個々の役割や楽しみが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物に行く時など、声掛けを行っている。ご家族と外出できるよう、ご家族にお願いしている。	陽気のよい季節には、散歩や花見・玄関先での日光浴をしたり、年に2～3回は回転寿しに行き、好きなものを食べてもらったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物、外出時は職員が見守り手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には代行し、電話をかけ、話をして貰っている。手紙が来た時は、本人に返事を書くか確認し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除により清潔を保ち、ブラインドにて採光調整を行っている。空調や床暖房で過ごしやすい温度設定を行っている。毎月のカレンダーを作り、季節感を味わっている。	キッチンとリビング兼食堂が対面式になっているので、調理での音や匂い等の五感刺激を感じられようになっている。また、東面の掃き出し窓から畑の作物が見え季節を感じることができる。壁面には、利用者が制作した作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き、気の会う方々が談笑したり合唱したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より使い慣れた私物を持参頂き、活用している。	自宅より使い慣れたタンスやテレビ等を持参して頂き、使用している。また、身の回りで使う物や衣類もハンガーにかけて手の届く場所に配置して、生活しやすい環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに張り紙をしたり、居室にネームプレートを取り付けたり、分かりやすく配慮している。		